

## いにしへの映画つれづれ⑫ 「暴力教室」 元祖・荒れる教室

千葉豹一郎

4月は新年度の始まり。学校でも新入生を迎える季節だ。「三年B組金八先生」が人気を集めていた1970年代の終わりから80年代にかけて、荒れる教室が社会問題になっていた。教師が生徒の襲撃に備えて所持していた護身用ナイフで、生徒を傷つけるという事件まで起きた。中学時代の鉄拳教師が、暴れた生徒を取り押さえようとして逆にケガを負ったという新聞記事を目にして、想像以上の荒れようを実感したものだった。アメリカで流行ったものは、いずれ日本にもやって来るのが通例だが、本家では戦後間もなくから荒れる教室が早くも問題になっていたようだ。今回の「暴力教室」は、そうした問題を真正面から捉えて一大

センセーションを巻き起こし、制作会社のMGMのプロデューサーが議会に召喚までされたが、アカデミー賞の脚色賞をはじめ4部門にノミネートもされた。当時の日本ではまだ学校の締め付けが厳しく、ジーパンをはいたり映画を観に行っただけで不良扱いされ、ギターまで非難の対象になって寺内タケシが学校を回って説得に当たったりしていた。そんなご時世だから、「暴力教室」に大変なショックを受け、各地でPTAや教育団体が抗議の声を上げて、大規模な上映反対運動が展開されたりもした。しかし、これがかえって怖いもの見たさに油を注ぎ、ヒットするという皮肉な結果となった。本作は公開当時こそ大きな話題になったが、

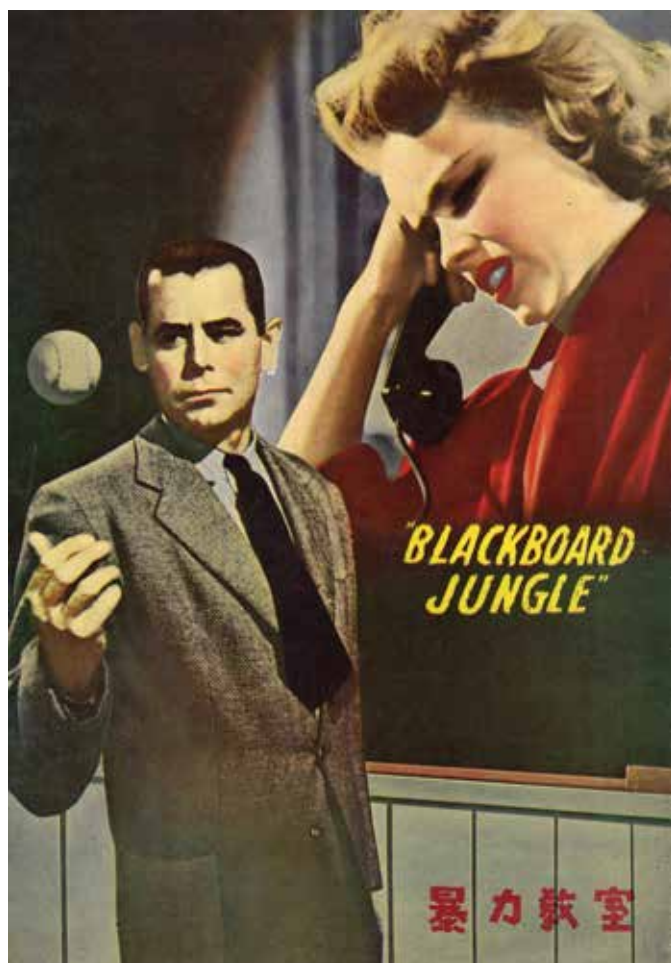
半世紀以上にテレビで放映され、80年代に深夜枠でリピートされたきりで近年はすっかり忘れられて話題に上ることもなくなっている。今観ると甘さも目につくものの、スタッフ、キャスト共に一級の顔ぶれで、後に名を成す面々が揃っていて、それだけでも楽しめる。

原作は、本国よりも日本でたびたび作品が映像化されている「87分署シリーズ」のエド・マクベイン。当時はエヴァン・ハンターの筆名で、本作で一躍人気作家の仲間入りを果たした。

監督は、原作が「十字砲火」(47)に映画化されて脚光を浴び、ハンフリー・ボガートの「キー・ラーゴ」(48)等の脚本家から監



「暴力教室」のロードショー時のパンフ。フォードと妻役のアン・フランシス



2番館のパンフ

## いにしへの映画つれづれ⑫ 「暴力教室」元祖・荒れる教室

督になったリチャード・ブルックス。「冷血」(67)や「ミスター・グッドバーを探して」(77)等の問題作を手がけた社会派で、本作品でも脚色を担当している。主演はコロンビア映画の専属で50年代を代表する人気スターの一人だったグレン・フォード。MGMに貸し出されての出演だ。この後の「八月十五夜の茶屋」(56)のロケでも来日した親日家で、ジャンケンまで知っていたという。初めての大役となる妻役のアン・フランシスは、60年代にヒットした強い女の草分けテレビの「ハニーにおまかせ」が有名。監督のオリバー・ストーンが大ファンで、初めて会った際にいきなり抱きついたといわれる。不良の親玉には、テレビの「コンバット!」で人気者となり、「トワイライトゾーン/超次元の体験」(83)の撮影中に事故死したヴィック・モロー。そして、クラスのリーダー的な生徒役に、黒人スターの先駆者シドニー・ポワチエが扮している。ポワチ

エは、黒人嫌いのリチャード・ウィドマークに徹底的に追い詰められる医師を演じたデビュー作「復讐鬼」(50末)で早くも注目され、本作でさらに注目度を上げて後の活躍につながってゆく。この映画の当時30歳近かったが、違和感なく高校生を好演している。

特筆すべきは、ビル・ヘイリーによる主題歌の「ロック・アラウンド・ザ・クロック」。1950年代半ばの当時はロックンロールの黎明期に当たり、エルヴィス・プレスリーのセンセーショナルな登場が物議を醸して、それこそ不良の音楽だと白眼視する向きも少なくなかった。これと対極にあったのが、開拓時代の英雄ダニエル・ブーンの末裔の一人で敬虔なクリスチャンでもあった「砂に書いたラブleter」のパット・ブーンである。その澄んだ健全な歌声で人々を魅了し、PTAご推薦ともいべき人気を博した。そんな時代背景もあって、「ロック・アラウン

ド・ザ・クロック」は本作によくマッチしていた。1954年の発表当初はほとんど注目されなかったが、本作の主題歌となったことで一気に大ヒットし、世界的な売り上げを記録した。そこに至る経緯がまた面白く、主演のグレン・フォードの息子ピーターがこの曲に関わっていて、フォードが監督のリチャード・ブルックスに紹介し採用された。

物語は、復員してニューヨークの問題校に教師の職を得た元海軍将校ダディエ(フォード)の奮闘記。

そこは聞きしに勝る問題校で、生徒たちは学習意欲などまったくない不良のたまり場で暴力もはびこり、先輩教師マードック(ルイス・カルハーン)など「われわれは、市民が安全に歩けるようにするための残飯入れだ」とまるでやる気がなかった。

それでも理想に燃えるダディエは、不良の頭目ウェスト(ヴィック・モロー)に手



珍しい予告のチラシ



「八月十五夜の茶屋」(56)のパンフ。左から、京マチ子、珍妙なメーキャップで日本人に扮したマーロン・ブランド、フォード

## いにしへの映画つれづれ⑫ 「暴力教室」元祖・荒れる教室

を焼きながら、もうひとりのリーダー格ミラー（ポワチエ）を味方につけてクラスを立て直そうとする。ところが、女性教師を襲おうとした生徒を取り押さえた際にケガを負わせたことから反感を買い、同僚教師との帰途、襲われて負傷する。転職を考えたダディエだったが、気を取り直した矢先、身ごもる妻が早産する。ダディエを誹謗中傷する手紙が原因と知って再び辞職を決意。しかし、全快した妻に励まされ、やる気を出した同僚教師にも触発されて再び教壇に立ったダディエに、ウェストがついにナイフを向ける。乱闘の末、ミラーも手助けして取り押さえられたウェストらは退学となり、教室にはかすかな希望が見えてきた……。

ウェストらを取り押さえる際、教室にあった星条旗の竿を使うところが象徴的で、こんな学校でも教室に星条旗を掲揚していることと共いかにアメリカ的な描写だと思ったものだ。

ダディエ役のグレン・フォードは戦前に

デビューし、戦後のフィルム・ノワール「ギルダ」(46)で一躍注目され、所属したコロンビア映画を中心に、ひねりを利かせた「必殺の一弾」(56)、07年に「3時10分 決断のとき」にリメイクされた「決断の3時10分」(57)等の西部劇、社会派ドラマの「アメリカの戦慄」(55)、「雷撃命令」(58)等の戦争物、「誘拐」(56)「追跡」(62)等のサスペンスから、「ポケット一杯の幸福」(61)のようなコメディまで幅広いジャンルの作品で活躍。癖のない万人受けする個性で親しまれて50年代を代表する人気スターとなり、全盛期に「自分の思っていた以上になれて満足している」と謙虚に語っていた。先祖にはアメリカ大統領もいる家柄で、芸名も故郷から取るなど郷土愛も強かった。「八月十五日の茶屋」(56)のロケで来日した折も地元で溶け込んで大歓迎を受け、映画評論家の淀川長治氏もその人柄を称え、「学校の先生みたいな人でした」と印象を語っていた。スタッフの受けもよかつ

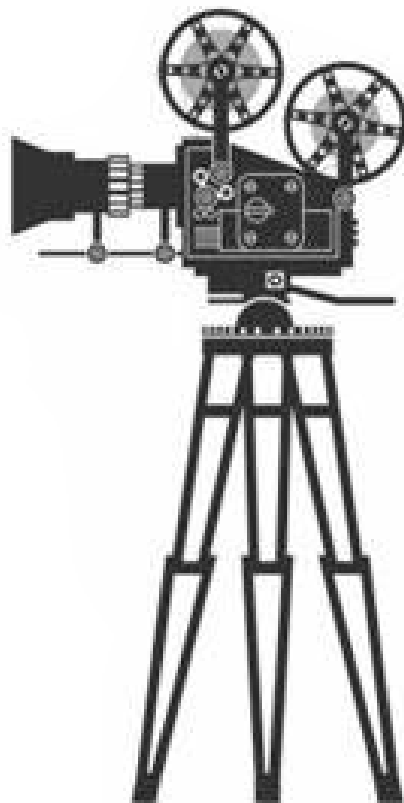
たが、60年代に入るとアルコール依存がひどくなって怒りっぽく気難しくもなり、扱いにくいスターと敬遠されるようになる。70年代初頭に映画の不振から、ヘンリー・フォンダ、ジェームス・スチュアートら旧世代のスターらと共にテレビに進出し、「保安官サム・ケイド」に主演。しかし、いずれも有名スター頼りの安易な企画で揃って全滅した。60年代末には日米合作の「硫黄島」の制作が発表され、来日したフォードがワイドショーで抱負を語っていたのをよく覚えているが、諸般の事情で制作中止に。角川映画の「復活の日」(80)に大統領役で出演するも、セリフが覚えられなくなって往生するほどで、ほぼ引退状態となった。その後もたびたび大病を患いながらも乗り切って、2006年に90歳で没した。長期間アルコール依存だった割には随分長生きしたもので、アルコールに溺れなければもっと活躍できたに違いない。その意味で残念な後半生であった。ちなみに、「ギルダ」で共演した40年代のセックス・シンボル、リタ・ヘイワースもアルコールで自滅しており、名コンビが揃ってアルコールの誘惑に勝てなかつ

たことは、欧米におけるアルコール問題の深刻さを物語る。

フォードと対照的なのが、不良生徒役のヴィック・モローである。「トワイライトゾーン／超次元の体験」(83)の撮影中に事故に遭い、53歳の若さで無念の死を遂げた。ヘリコプターの墜落に巻き込まれる瞬間の衝撃的な映像はニュースでも流れ、ご記憶の方も多いだろう。幾度も激戦をくり抜けた、「コンバット！」のチップ・サンダース軍曹のあ



ひねった設定で楽しませた「必殺の一弾」(56)



まりに悲惨な、そしてあっけない死は世間  
に大きなショックを与えた。

モローは「暴力教室」で映画デビューし  
て注目され、西部劇の「悪人への貢ぎ物」  
(56)等に出演し、「シマロン」(60)では再  
びフォードと共演している。しかし、映画で  
はあまり成功せず、「アンタッチャブル」「ラ  
イフルマン」「ボナンザ」等の人気番組のゲ  
ストを経て、リック・ジェーンソンと交互に主  
演した「コンバット！」で一躍人気者とな  
り、軍服姿で羽田に降り立ったりもして、後  
に東映の「宇宙からのメッセージ」(78)に  
も主演した。「コンバット！」の7本や「ス  
レージ」(70)等の監督も手がけて脚本も執  
筆するなど、裏方のオにも恵まれていたが、  
5年間続いた番組は67年に終了。

当たり役だっただけに、その後は「コン  
バット！」のイメージから抜け切れずに低  
迷期が続いた。再起を賭けた「トワイライ  
トゾーン」での無残な死は、あまりにも不運  
だった。

「黙秘」(95)等で活躍するジェニファー・  
ジェーンソン・リーは実娘。こちらも監督や脚  
本も手がけ、父親と母親の女優で脚本家の  
バーバラ・ターナーの血をしっかりと受け継  
いでいる。東京国際映画祭をはじめ数々の  
賞を受賞し、「ヘイトフル・エイト」(15)で  
はアカデミー助演賞の候補になるなど地味  
ながら実力派として評価も高い。

やる気のない先輩教師役のルイス・カ  
ルハーンは、モンローの「アスファルト・  
ジャングル」(50)をはじめ、「アニーよ銃を  
とれ」(50)「ジュリアス・シーザー」(53)  
等に出演したサイレント時代からのヴェ  
テラン。「八月十五夜の茶屋」(56)のロケ  
でフォードやマーロン・ブランドらと来日  
したが、何と心筋梗塞により奈良で急死！  
190 cmを超える長身だったため、収める棺  
桶がなくて関係者は苦心したという。

ところで、本作の最初のテレビ放映時の  
吹き替えは、ちょっといただけなかった。す  
なわち、ヴィック・モローは代表作の「コ  
ンバット！」をはじめ、吹き替えのほとんど  
を田中信夫が担当（「宇宙からのメッセー

ジ」では若山弦蔵）。シドニー・ポワチエも  
ほとんどが田中信夫で、両者とも田中以外  
には考えられないほどハマっていて視聴  
者にもそのイメージが定着していた。結局、  
人気番組だった「コンバット」を優先した  
らしく、田中をモローにアテた。と、ここま  
ではよかったのだが、ポワチエに木村幌を  
持ってきたのがいけなかった。木村は主役  
のフォードの作品のほとんどをアテてお  
り、年齢的にもポワチエにはあまりふさわ  
しくなかった。フォードは時代劇にもよく  
出ている保科三良という新劇俳優がアテた  
が、観ているこちらは混乱し、ここはフォ  
ードに木村を持ってきて、ポワチエは別の声  
優に担当させるべきだったと思う。アテレ  
コの現場でも、声優たちが混乱したのでは  
ないかと余計な心配までしてしまった。「日  
曜洋画劇場」から特定の俳優の声を一人的  
声優が担当するフィックスが定着してき  
たが、当時の有名声優は大体複数の俳優を  
持ち役にしていたので時折こういうこと  
が起きた。大物俳優でも民放より安いギャ  
ラで使えるNHK や某局では、うちは違う  
ぞ、という独自性を出  
したかったのか、わざと  
フィックスを外して意  
外な俳優を起用したり  
していた。もちろん成  
功例もあったが、大方は  
不評でフィックスに沿  
うようになることも多  
かった。映画ファンや熱  
心な視聴者を、なめたら  
あかんぜよ、というわけ  
だ。近年はソフト化に際  
して、オリジナル吹き替  
え版の音源を一般にも  
呼びかけて探すケース  
も多く、それほど日本語  
版の役割は大きいのだ。

「暴力教室」 1955年 モノクロ  
Blackboard Jungle

原作 エヴァン・ハンター

監督・脚色

リチャード・ブルックス

出演 グレン・フォード

アン・フランシス

ヴィック・モロー

シドニー・ポワチエ

ルイス・カルハーン

著者紹介

千葉豹一郎

作家・評論家。著書に「法律社会の歩  
き方」(丸善)「スクリーンを横切った猫た  
ち」(ワイズ出版)(電子版はアドレナライ  
ズ)「昭和30年代の備忘録(電子版)」(ユ  
ニワールド)「猫と映画人(電子版)」(ア  
ドレナライズ)等の他、「東京新聞」「ミス  
テリマガジン」(早川書房)「猫生活」(緑書  
房)等をはじめ連載も多数。独特の切り口  
で草創期からの外画ドラマの研究や紹介  
にも力を入れている。



あの日、未来は明るかった――。  
慌ただしくもほっこりと、現代人の郷愁を誘う  
“昭和30年代のマスカルチャー”

ケーシー先生や力道山に憧れ、アトムや鉄人に変身し、カラーテレビが、クーラーが、ハンバーガーショップが  
身近に押し寄せてきた夢いっぴいの少年時代。一方で、周りを見回せば捨てられたガム、連続する鉄道大事故、  
暴走タクシー。牛の銘柄の豚肉100%コンビーフや怪しい逃げないアイスも売られ、食の安全はそっけの状態で。  
“古き良き昭和”ばかりではない、リアルな日本の高度成長期を描いた愉快なエッセー。

大田区大森を中心に、  
高度成長期の東京が  
いきいきと盛りまわす。

付録ムービー テレビ・芸能	1. テレビの青春時代	2. 教科書だったアメリカのドラマ	3. アロレスと方面山	4. 実写版「鉄腕アトム」と「鉄人28号」	5. コマツの女王 機トシエ	6. 電気室の裏うつ	7. カラーテレビ狂想曲	8. リモコンテレビが欲しい!	9. シューを穿つたまま寝ると死ぬ?	10. 赤ら顔イタカタ	11. 可愛いワジバントカメラ	12. 8ミリアリム	13. モナカカレーと「少年ゼット」	14. アメリカンドック事始め+モネード	15. ハンバーガー開拓史	16. スパゲティは妙なる物?	17. 味のフルムン	18. 髪型と歯と歯磨きと歯医者	19. 粉末ジュースの歴史	20. 傑作! 噴水型ジュース自販機	21. 10円アイスクリームが花盛り	22. 消えたガムつれづれ	23. 数の手廻し	24. 2B弾とクッキー	25. 飯玉鉄砲の王道	26. 輝くマテル	27. 奥まった金屋製のモデルガン	28. プラモデル熱中時代	29. ケネディの時代	30. 外単全選	31. 国産車は誰が乗る?	32. ランドリッパのような車の三角窓	33. デパートはワンダーランド!	34. 町の映画館	35. 折りたたみ式コップ	36. 月刊マンガ隊と付録	37. ベラベラのソフシート
------------------	-------------	-------------------	-------------	-----------------------	----------------	------------	--------------	-----------------	--------------------	-------------	-----------------	------------	--------------------	----------------------	---------------	-----------------	------------	------------------	---------------	--------------------	--------------------	---------------	-----------	--------------	-------------	-----------	-------------------	---------------	-------------	----------	---------------	---------------------	-------------------	-----------	---------------	---------------	----------------

\*当書 DVD 版は、月刊 FDI 編集部にて\*  
本文：108ページ / 映像：2分23秒 2012年9月ミリアムワード(株)発行  
価格：1,980円(税込)  
株式会社ユニワールド 東京都世田谷区上北沢3-17-5 杉本ビル1F